

「ささえ」

2008年7月発行 情報誌 第24号

発行 NPO福祉用具ネット事務局

住所: 福岡県田川市伊田4395 (福岡県立大学付属研究所 生涯福祉研究センター内)

TEL/FAX: 0947-42-2286

E-mail npo-fukusiyougunet@sage.ocn.ne.jp

HP <http://www10.ocn.ne.jp/~npofynet/enter.htm>

情報誌「ささえ」は年4回(1月・4月・7月・10月)発行しています。

福祉用具はあなたの自立をささえます

あなたのささえがNPO福祉用具ネットを元気にします

床ずれ防止ハイブリッドエアマット「ピーウェーブ」

P-Wave



介護保険貸与対象商品

本製品は福岡県産炭地域
振興センターの助成を受け
て産学官で共同開発した
商品です。

特長

床ずれが一番発生しやすい腰周り部分だけが膨縮するエアマットタイプ。
部分的なエアマットなので浮遊感が少なく寝心地がとてもよい。



特定非営利活動法人
NPO福祉用具ネット

「大切な芽を皆さんのやさしさに包まれながら育んでいきたい…」

地域での生活を続ける

NPO福祉用具ネット理事長 豊田 謙二 (熊本学園大学社会福祉学部教授)

地球環境の破壊から地球を守れ、というキャンペーンが益々声高となっている。1992年にリオデジャネイロで採択された「リオ宣言」のなかには、「グローバルに考え、ローカルに行動を」という提言が示されている。この「ローカル」は「グローバル」との対照のなかで使用されているので、「グローバル」が地球規模とすれば「ローカル」は生活圏としての地域ということになる。自然環境は人為的に区切りを設けることができず、生活空間は自ずと地球規模へと広がっていくが、とくに環境政策での地方自治体と NGO/NPO との協働が望まれている。

さて、2005年の介護保険法の改正によって、ケアマネジメントの種類が従前の2つから3つへと改正された。つまり、改正後では「居宅介護サービス」「施設介護サービス」、そして「地域密着型サービス」の3種類である。「地域密着型サービス」は特に認知症高齢者の生活支援を目的とし、住み慣れた地域での生活の継続が課題とされている。そのなかには、9名規模の入所型施設である「グループホーム」や通いと泊まりのサービスを提供して居宅介護を支援する「小規模多機能施設」がある。

改正介護保険法ではもうひとつ、「地域包括支援センター」が設けられている。ここには、主任ケアマネ・社会福祉士・保健師という3つの専門職種が配され、相談・支援・権利擁護、介護予防ケアマネジメント、包括的・継続的ケアマネジメントが基本事業とされる。地域密着型サービスは民間事業者によるケアマネジメントであり、地域包括支援センターは行政責任を伴う事業内容であり、直営もしくは委託方式で運営される。

国の財政難の事情もあって、高齢者の「住まい」は施設から居宅へと軸足が移動し、さらに地域をキーワードとする「ケアマネジメント」に比重が移りつつある。この「地域」は先に見た環境政策上での空間を意味していない。より直截に言えば、認知症高齢者を任意の住民ネットワークによって見守り、「地域密着型サービス」はその仕掛けと拠点に位置する。また、「地域包括支援センター」は専門職ネットワークによる一人ひとりへの個別的な包括ケアマネジメントである。

いずれにせよ、ここでいう「地域」とは人のつながりを指している。施設でない、居宅でもない、新しい地域ケアマネジメントが求められている。そのケアマネジメント理念は、個別的・包括的ケアプランとともに、人のネットワークづくり、という生活環境づくりを特徴とすることに留意したいものである。

福祉住環境コーディネーター協会からの委託事業のご紹介

NPO 福祉用具ネットでは、昨年福祉住環境コーディネーター協会からの委託事業として、九州、山口、広島県での見学会の企画をしています。医療・介護・建築関係の皆様の見学を高めるために福祉用具の展示場や先駆的な取り組みをされているデイサービスなどの事業所や介護施設、企業などを見学するための準備をしています。

当 NPO が昨年度から企画しご案内をした施設は、熊本の希望の里ホンダ、太陽セランド(株)、総合せき損センター、防府市の夢のみずうみ村、大分県社会福祉介護実習センター、今年は TOTO 歴史資料館とショールーム、別府リハビリテーションセンターを見学させていただきました。さらに7月5日には山口市の夢のみずうみ村、10月には熊本市の特定非営利活動法人おーさぁの健軍くらしさえ愛工房、12月には別府太陽の家を見学を予定しています。新しい発見がたくさんあります。「一見は百聞にしかず」です。皆様も一緒に見学しませんか？ お申込は福祉住環境コーディネーター協会のホームページをご参照下さい。

(お問合せ先は事務局大山まで)

前期高齢者と後期高齢者の身体・認知・心理機能の比較 — 福岡市ふれあい交流参加高齢者に関する調査報告 (その 5) —

西九州大学教授
熊本学園大学大学院教授(NPO福祉用具ネット理事長)
特定非営利活動法人NPO福祉用具ネット(事務局長)

村田 伸
豊田 謙二
大山 美智江

前期高齢者と後期高齢者の身体・認知・心理機能を比較すると、とくに差が大きかったのは立位バランスを評価した片足立ち保持時間あり、後期高齢者は前期高齢者と比べて 38.5%の機能しかありませんでした。そこで、片足立ち保持時間に関連する要因について検討した結果、地面をしっかりと掴む力である足把持力が最も関連する要因として抽出されました(詳細は前号のささえに掲載)。

今回は、足把持力を中心に握力と大腿四頭筋筋力を含めて、それら筋力の性差ならびに年代別に比較検討してみます。

測定方法

足把持力とは:足指や前足部で地面を掴む力、すなわち足指を曲げる力と捉えています。専用の測定器を使って計測しました。

大腿四頭筋筋力とは:大腿部前面にある膝を伸ばす筋肉の力で、下肢筋力の代表値として採用されることの多い筋力です。これはハンドヘルドダイナモメータを用いて計測しました。

握力とは:ご存じのように、指や手で掴む力でデジタル握力計を使って計測しました。なお、高齢者の握力値は総合的な体力指標と相関が高いと報告されています。

分析方法:すべての測定は 2 回行い、そのうちの最大値を用いて分析しました。性差の検討は対応のない t 検定を用い、年代別の比較には一元配置分散分析および Scheffe の多重比較検定を行いました。ただし、年代別の比較は性差の影響を考慮し、性別に検討すべきですが、男性の対象者数(49 名)が少なく、年代区分にも偏りがあったため今回の分析からは除外しています。また、女性の 85 歳以上の対象者数も 6 名と少なく除外したため、年代別の比較は女性の 65

～69 歳(30 名)、70～74 歳(36 名)、75～79 歳(36 名)、80～84 歳(32 名)の 4 区分で検討しました。よって、年代別に比較した分析対象者は 134 名の女性高齢者となります(表 1)。

筋力の性差

足把持力、握力、大腿四頭筋筋力のすべてに性差が認められ、男性が有意に高い値を示しました。さらに、男性の測定値を基準として、

表 1 対象者の内訳

	男性	女性	全体
	(n=49)	(n=140)	(n=189)
平均年齢	74.1±5.8	74.8±6.0	74.6±5.9
年齢区分(名)			
65-69歳	9	30	39
70-74歳	22	36	58
75-79歳	11	36	47
80-84歳	5	32	37
85-89歳	2	6	8

表 2 測定値の性差

	男性	女性		百分率
	(n=49)	(n=140)		(%)
年齢(歳)	74.1±5.8	74.8±6.0	ns	
足把持力(kg)	8.8±3.5	5.7±2.3	**	64.8%
握力(kg)	30.3±6.0	20.3±4.1	**	67.0%
大腿四頭筋筋力(kg)	26.3±7.4	17.9±5.6	**	68.1%
平均±標準偏差, Two group T-test: Unpaired, **p<0.01				
百分率は男性の平均値を100としたときの女性の平均値				

女性の測定値を百分率で表すと、足把持力は 64.8%であり、握力 (67.0%) および大腿四頭筋筋力 (68.1%) の割合と特異的な差は認められませんでした (表2)。

筋力の年代別比較

今回分析したすべての測定値

は、加齢とともに徐々に低下し、有意な群間差 ($p<0.01$) が認められました (表3)。

さらに、検討した 3 つの筋力の各年代毎の変化率を比較するために、65～69 歳群の測定値を基準として、各年代の測定値を百分率で表しました (図1)。その結果、79 歳までは足把持力および握力より大腿四頭筋筋力の低下率が大きく、80 歳以上になると足把持力が急激に低下していました。よって、80～84 歳群の筋力を 65～69 歳群の筋力と比較すると、足把持力は 64.0%と最も低下しており、握力は 80.8%、大腿四頭筋筋力は 73.7%でした。

まとめ

今回は、65 歳以上の福智町ふれあい交流参加高齢者 189 名を対象に、足把持力ならびに握力と大腿四頭筋筋力をあわせて測定し、上下肢筋力の性差や年代別の特徴を比較検討しました。その結果、筋力は性差が認められ、とくに女性の足把持力は男性の約 65%に過ぎないこと、また女性の足把持力は、

加齢に伴い徐々に弱化が認められますが、とくに 80 歳以上でその低下が著しいことが見出されました。これらの知見から、転倒との関連が指摘されている足把持力の評価やそれを向上させるためのトレーニングは、高齢者でもとくに 80 歳以上の高齢者に重要であることが示唆されました。

なお、今回ご紹介した内容は、理学療法科学学会機関誌「理学療法科学」の研究論文として第 22 巻 4 号 (449-503 頁) に掲載されています。

表 3 各測定値の年代別比較

	65-69歳	70-74歳	75-79歳	80-84歳
足把持力 (kg)	6.8±2.1	6.2±2.0	5.9±2.1	4.4±1.9
握力 (kg)	22.9±3.2	20.2±3.6	19.8±3.5	18.8±4.4
大腿四頭筋筋力 (kg)	21.3±5.0	18.1±5.0	17.4±5.8	15.7±5.2

平均±標準偏差，一元配置分散分析，多重比較：Scheffe法
 ** $p<0.01$ * $p<0.05$

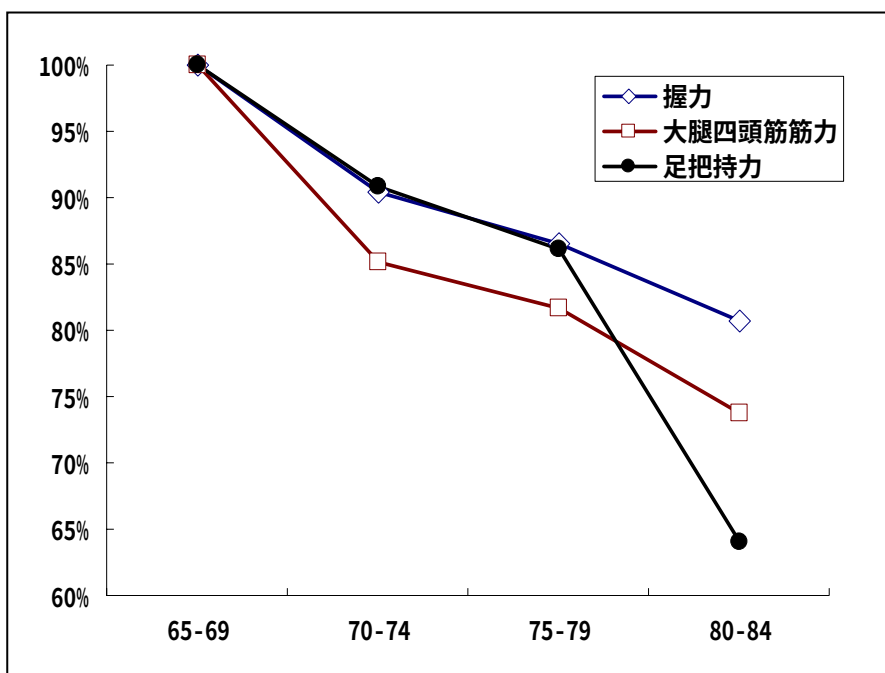


図 1 各測定値の年代別推移

65-69 歳群の測定値を基準として、各年代の測定値を百分率で示す

今、思うこと。「福祉用具の開発に王道なし」

(その15)

九州日立マクセル(株) 開発本部長 坂田 栄二
(NPO福祉用具ネット理事)

見つからない縫製屋さん

福祉業界最大のイベントであるHCR(東京国際福祉機器展)まで余すところわずか。

残すは、布団袋(布カバー)だけである。未だ先行き定まらず。大山のイライラは頂点にある。

松原から取り上げた電話帳を繰りながら、

「筑豊には、ほんとに布団屋さんが少ないわね。あんなふわふわで嵩張るようなものは地元で作らないと運賃ばかり高くてもったいないと思わん？」

これは、合理的な考えの大山の発想である。誰も異を唱えようとしな。触らぬ神か……。

「これなんか どう？」

傍らでミニキュービックを取り付けていた松原に電話帳を差し出す。さもこの布団屋さんに行行って来たらとでも言いたげに。察知した松原は、聞こえない振りをする。

大山は、お構いなしに携帯電話を取出し、

「NPOと言いますけど、工場見学をしたいのですが……」

と申し入れをした。どうやら快諾を得たらしい。

「何時でもいいからOKらしいよ。」

これは明らかに、「早く行って来い」の合図だ。

松原と坂田は、飛び出すようにその布団屋まで車で出かけていった。

根性で探すぞ

2人が出かけた後、大山はまだ電話をかけまくっていた。

なかなか色良い回答は得られない。シャツや服のような小さめサイズの縫製は出来るが、布団袋のような大きなものは、紙型やミシンの大きさまで違うので、「うちでは無理ですよ!」と言う回答ばかりである。

「そうだ。飯塚研究開発機構に紹介してもらおう。」

飯塚研究開発機構は、開発時に困ったときに相談すれば、そのネットワークで相応しい業者さんを紹介してくれる便利な組織である。大山は、この機構に電話で申し入れをした。解答は早かった。

「開発機構から紹介されたのですが、縫製屋さんを探しているとか……。」

この電話の持ち主は、北九州地区で技術アドバイザーをしている。大山は、これまでのいきさつを掻い摘んで話した。電話の先は納得したようで、

「それじゃ、いくつか当たってみます。」

といって電話は切られた。ほんとに大丈夫なのだろうか。心配しても仕方ないとばかりに、また膝の上に電話帳を広げ、パラパラとあてもなく繰っている。その1つに目が留まった。早速電話してみる。

「お宅はどこにあるんですか？ あー…この近くですか！ すぐに行きます。」

やけに明るい相手の声。これは期待が持てそうだと大山は安堵した様子で、電話の蓋を閉じた。

何しろこれまで掛けた電話は10箇所近くに及ぶ。

やはりだめか

そこへ、松原と坂田が戻ってきた。

「だめだったよ……。布団は作れるけど、こんな凝った布団袋は難しいと断られた。撥水性があっても通気性があり、その上 伸び縮みできる布地は扱ったことがないらしい。」

さも疲れたとでも言いたげに、どかっとイスに座った。

「そうね。仕方ないたい。でけんもんはできんたい。」

大山は特段、残念がってはいない。

「代わりに、別のを見つけといたよ。この近くばい。」

次の言葉を聴かないうちに、松原は立ち上がって、

「そこにも行って来いと言うんやろ。坂田、行こっ！」

住所の書いたメモを持って2人はまた出かけた。そこは土建屋さん向けの大きな麻袋を縫う会社だった。

その社長と面談した2人は、まともや肩を落とした。社長は、

「何でもチャレンジします。」

と元気は良く、やる気満々なのだが、麻布をミシン掛けする仕事のため、ミシン針はでっかく、繊細な布団袋には向かない。おまけに作業環境は、ほこりまみれで、お世辞にも寝具の製作には不向き。

2人は、ほうほうの体で逃げ帰った。

楽しみに答えを待っていた大山は、2人の報告を聞いて、これじゃ打つ手がないと沈んだ。

時間はどんどん進んでいく。HCRまで残された日は、あとわずか。

先詰まりの日々が流れた。

中国製？

ある日、北九州のアドバイザーから紹介されてい

た門司の縫製業者が、試作品を持って来た。この会社には、紹介された後、すぐに営業マンが来たので、こんなものが欲しいと図面を渡して頼んでいたからだ。

しかし大山がコストのことをあまりにも強調すぎたせいか、その業者は、
「中国で試作しました。かなり安く仕上がりました。いくらでも大量に、すぐに出来ますよ。」
彼は自慢げに机の上に試作品を広げ、腕を組んでいた。
その場に居たNPOの開発者たちは、無言だった。素人目に見てもあまりにも無残だったからである。どう返答したらいいのかさえ見当がつかない。困り果てた大山は、顔を引きつらせながら、
「まあ、とにかく検討してみますよ。」
と返答するのが精一杯。早々にお引取りしてもらった。

袖岡のじいちゃんの孫

次の日、筑豊でリネンサプライを営んでいる会社で福祉事業を担当している甘村が様子を見にやってきた。彼はNPOの理事でもあるから協力は惜しまないだろう。その上、彼は世話好きで「いや！」とは言わないはずだ。はたと大山は思いついた。そうだ、彼ならシーツや貸し布団を扱っているから、きっと縫製屋さんを知っているだろうと。

「甘村さん。相談があるんだけど。」
「何ね！大山さんの頼みなら何でも聞くんよ。」
「実は布カバーがまだ出来ちゃらんとはよ。」
「もう日にちがなかるうに。大丈夫かい？」
「誰か、縫製に詳しい人、知らんね？」
「それやったら、うちがいつも（何時も）頼んじよる人が居るばい。電話かけてみちゃるか。」
彼は筑豊なまりの強い声でそう言うと、腰ベルトに着けたホルダーから電話を取り出し、すぐにダイヤルした。
電話の向こうの人は、甘村の声の調子から急いでいるのだと感じたのか、すぐに軽トラにのってやってきた。
一通りの挨拶が済んで、机の上に広げられた中国製の試作品を見るなり、彼は深いため息をついた。
「これじゃ売り物にならんね。」
と、試作品の縫い目を両手で広げながら、問題点を挙げ、私ならこうしたいと説明し始めた。
その指摘事項はどれも納得のいくものであった。大山はみんなの意見を聞くまでもなく、

「何とかこのカバーを売りものに仕上げてもらえませんか？」

「そうやね。じゃ、いい人を紹介しましょう。」

彼は、

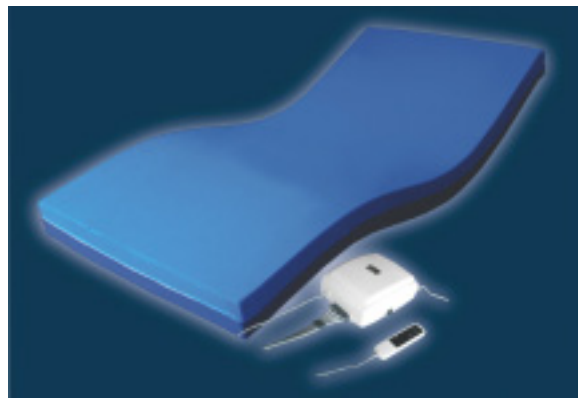
「うちの孫がお世話になってますもんで。私も何かお手伝いできれば。」

実は、彼の孫が福岡県立大学の学生で、時々、NPOのボランティアに参加してくれていた。この学生のおじいちゃんが彼だったとはなんと言う奇遇か。

頼もしい！その場に居合わせた皆がそう思った。その日以降、皆は「袖岡のじいちゃん」と呼び始めた。

袖岡のじいちゃんは、長年付き合いのある飯塚の縫製会社メイコーを紹介してくれた。

次の日、セカンドバッグを小脇に抱えたとっつきにくそうな人が尋ねてきた。（つづく）



平成15年東京国際福祉機器展出展時のP・Wave

事務局大山からもひとこと

私って、こんなに田川弁かしら・・・
ちょっとショック！

それはともかくとして・・・
P・Waveのカバーの完成までには本当に紆余曲折ありました。
現在のカバーとなるまでには本当に多くの皆様のお力添えがありました。
今、振り返って改めて感謝！感謝！の気持ちです。
特に後半に登場していただいている縫製のスペシャリストである袖岡さんやメイコーの北川社長さんのご協力がなかったらどうなっていたことでしょう！
次号をお楽しみに

心ひかれた福祉用具《マイチョイス》 (シリーズ 5)

NPO 福祉用具ネット会員 (理学療法士) 井内 陽三

尊厳 (そんげん) を守ったポータブルトイレ

介護・看護・リハビリなどの現場では、よく「尊厳を守る」という言葉を聞きます。「尊厳 (そんげん)」(※とおとく、おごそかなこと) と、簡単に言ってもいろんな意味、行動が含まれます。今回、排泄ケアの重要性を教えられた事例をお話したいと思います。

ある時、「歩きにくくなった人がいて、何とか介助がしやすいように」と、ケアマネージャーさんの依頼で、Aさんのお宅に伺いました。在宅で、ターミナル・ケア (回復の見込みのない患者の苦痛を緩和し、精神的に支え、生を全うできるように行う介護・医療。) を受けていた方でした。当初から、「トイレに何とか行きたい」との希望をもたれていました。訪問開始時には、家族の介助でトイレに行けてたので、あまり重要視はしていませんでした。

そのうちに体力低下が徐々に見られ、ベットから起き上がるのにも一苦労。そこで、ベットの背上げ機能にて起き上がり、トイレまで行く方法に変えました。次第に立ち上がりも行いにくくなったため、ベットの昇降機能で立ち上がりを補助する方法に変更。しかし、その後、介助者の腰痛が出現し、立ち上がり介助が困難になり、自宅のトイレ利用が難しくなっていました。それでも、「何とかトイレには行きたい」と言われ続けていました。おむつ利用に切り替わったあとも、「何とかトイレに座りたい」と本人の強い希望は続きました。このときすでに立ち上がるには、座面が50cmの高さはないと、困難なぐらいまで体力低下が進んでいました。ずっと、本人からは「トイレに自分で行きたい」と訴えが続き……。

この過程で、支援者の自分の考えも変化し始めました。徐々に体力が低下していく中で、「食事がしたい」や「体がきついで寝ていたい」ではなく、「トイレに自分で行きたい」と希望し続けていることを何とかかなえられないかと。

家屋、介護者の状態から「ポータブルトイレ」が、要求に一番近い方法と考えました。本人もそれは了解されました。問題は、その「高さ」と「移る方法」です。果たして、そんな都合のよいポータブルがあるのか、また、この体力が落ちた状態の方に無理ができるのかと考えましたが、「何とかトイレに」との思いに賭けてみることにしました。条件としては、「50cm まで座面が上がり、乗り移りやすいもの」。探し続けてようやく見つけ、体力の低下した状態でしたが移乗の練習を開始したのです。不安をよそに移乗練習後、ズボンの脱ぎ履きの介助で、この方は「ポータブルトイレ」が使えるようになったのです。「できましたね」の問いかけに、気軽に返事をする余裕はなかったのですが、そのときのどことなく達成感をもたれたような顔は印象的でした。

すぐあとに体力低下でリハビリの訪問も中止になりました。しかし、ケアマネージャーさんの話では、その後も呼吸状態が悪化しながらも、亡くなる少し前まで、トイレに座り続けたとのことでした。今回のことを通して、言葉は少なかったですが、その行動で「自分でトイレに行く」ということが、いかに大切な部分であるかを学びました。そして、このような願いをかなえてくれる、様々な種類の福祉用具の重要性も同時に知ったのでした。



今回、選んだ製品 【ナーセントトイレ】 (アイ・ソネックス(株)製)

～事務局からの報告～

■ 平成20年度通常総会が開催されました。

5月15日に平成20年度通常総会が開催され、会員数113(個人・団体)の内、91(団体・個人)の委任状含めた出席のもと、議長に朝比奈聡氏が推薦され、平成19年度事業報告および決算報告ならびに平成20年度事業計画・予算案・役員の改選について審議されました。提案されたすべてにおいて全会一致で承認されましたことをご報告いたします。さらに7月からの新理事体制においても、豊田謙二理事が引き続いて理事長に就任されることも理事会の互選で決定いたしましたことについても総会にてご報告させていただきました。

財政が一段と厳しい状況になっています。会員の皆様のご支援とご協力を何卒よろしくお願いいたします。

■ 平成20年度新規会員募集中です。会員としてNPO福祉用具ネットをささえていただけませんか！

会員は研修会の受講費用が安価、今年度から会員限定研修会も企画します。

個人年会費4,000円、団体年会費30,000円です。新規の場合は別に入会金として、個人会員1,000円、団体会員2,000円が必要になります。引き続いて会員の皆様のご協力をお願いいたします。

■ 今後の研修会のご案内 (以前にご案内した内容に変更がありますのでご注意ください)

日程	テーマ	講師	会場
7月19日	排泄ケアの実際	浜田きよ子先生	福岡県立大学内
8月9日	医療依存度の高い方のケア	是松さくゑ先生	太陽セランド(会場変更)
9月6日	認知症	今林 聖子先生	福岡県立大学内
10月4日	ケアプラン研修会	是松さくゑ先生	福岡県立大学内
10月25日 (日程変更)	会員優先研修会 移乗・移動の介護技術	井内 陽三先生 海尾美年子先生	福岡県立大学内
11月8日	車いすの選び方 パート3 重度な方の車いすの選び方	松尾清美先生	太陽セランド(会場変更)

会場や日程が変更になっていますのでご注意ください。

すべての研修会是有料で、事前に所定の申込用紙によるお申込が必要です。詳細はホームページ又は事務局にお問合せ下さい。

■ 福岡県立大学福祉用具研究会第1回目を開催

内容：事例相談 車いすの選定について

提案者 理学療法士 井内 陽三氏

事務局 大山 美智江

日程：平成20年6月20日金曜日18時から20時。

■ 第1回 介護者研修会を開催！

「高齢者の口腔ケアについて」講師 歯科医師 廣瀬知二先生の研修会を6月21日(土)14時～16時に開催しました。詳細は次号でご紹介予定。

■ 福祉用具研究会会員追加募集のお知らせ

(現在、研究会会員は専門職や開発者など26名)

締切 7月10日まで

参加者の皆様から事例の提案をしていただき、参加者の皆様に協議していただき、よりよい解決策や課題を探りたいと思います。一人で悩まないで仲間と共有しませんか？

皆様の参加をお待ちしています。事前に研究会のお申込手続きが必要となります。申込された方に今回の開催内容や日程についてお知らせいたします。

(詳しくはホームページでもご覧いただけます)

お問合せ先： NPO福祉用具ネット事務局
0947-42-2286 (担当大山)

または 福岡県立大学福祉用具研究会事務局
0947-42-2119 (担当中藤)

■ その他の団体等が主催する研修会情報

①テーマ：「認知症にやさしい住まいと福祉用具」

講師：シニアクラブ所長 吉田誠治先生他

日時：平成20年8月5日(火)18時～20時

場所：TOTO本社ショールーム(北九州市)

受講費用： 無料

申し込み方法： 現地受付

②テーマ：「認知症を治すケア研究会」in福岡

講師：竹内孝仁先生

(国際医療福祉大学大学院教授)

日時：平成20年9月27日(土)～28日(日)

場所：飯塚コスモスコモン中ホール

受講費用： 6,000円(資料代含む)

申し込み方法： 所定の申込用紙にてファックス

受講費用は事前に指定の口座に振込みが必要

問い合わせ先： 詳しくは実行委員会事務局

09496-2-0700 (担当 森様・日高様)